

# 鳥インフルエンザ、BSE等の高精度かつ効率的な リスク管理技術の開発（継続）

【691（700）百万円】

## 対策のポイント

人獣共通感染症のヒトへの潜在的リスクを減少させるため、検査技術の迅速化や病原学的・疫学的知見の集積を図ります。

（人獣共通感染症とは）

共通の病原体により人間と動物の間で伝播する伝染病です。高病原性鳥インフルエンザ（A型インフルエンザウイルス）、BSE（異常プリオン）等は世界的に家畜等での発生が報告されており、ヒトへの感染防止対策が重要となっています。

## 政策目標

現在実施されている防疫措置の高精度化、効率化を通じた、感染症リスクの低減と防疫措置に係る行政コスト及び農家の経済的損失の低減

## <内容>

### 1. 鳥インフルエンザ等のウイルス感染症対策技術の高度化

鳥インフルエンザウイルスの変異・増殖機構の解明、ウイルス検査の迅速化技術の開発、万一の場合に備えた家きん用ワクチンに関する研究、媒介動物等でのウイルス感染制御技術の検討を行います。

### 2. BSE対策技術の高度化

プリオン蛋白質の性状解明、高感度検査法の開発の他、肉骨粉等の低コスト不活化処理のための技術開発を行います。

### 3. 人獣共通感染症の制圧のための技術開発

国内での新興・再興が懸念される人獣共通感染症について、国内発生時の緊急的な病性鑑定技術等を開発します。

## <実施主体等>

実施主体 民間団体等  
実施期間 平成20年度～平成24年度

[担当課：農林水産技術会議事務局研究開発官（食の安全、基礎・基盤）  
（03-3502-7430（直））]